

下比木・比木原 当日 Q&A

Q：市長は西を向いての広域化と言うが、火葬場とごみ処理場の今後はどうなる。

A：火葬場は、改築しかできない状況。しかし、市単独で火葬場をもつことは非効率。広域の火葬場は必要だが、具体的な話には至っていない。ごみ処分場は施設の痛みが早く修繕費もかかっている。今後の方策は組合で研究していきたい。消防署は原子力発電所が立地することから、総務省から化学消防車を配備することが求められている。また、ビジネスホテルなど高い建物も立地してきたことから、はしご車の配備も検討しなければならない。牧之原市との調整や組合議会で協議していく。

Q：荒廃農地の再利用と言うが、高齢化での後継者不足と収益がないこと。収益を上げるには設備投資は欠かせない。しかし、政権が変わり補助金もカットとなれば市として何らかの対応が取れるか。また、共同または3人以上でなければ補助対象にならないなどの規制もかけているが、共同で大規模にやろうとしても年代の差でまとまらない。借り入れをしようにも60歳を超えては資金調達も難しい。茶価も極端に安く、肥料代も出ない。市としての対策を聞かせてほしい。

A：国も考えているが、市でも何とかしたい。農業ビジョンを策定する中で高齢化、農産物価格の低迷は市でも可能な限りサポートしていきたい。共同でなければ対象とならない補助などの条件は緩和していきたいし、専門家の意見も取り入れていきたい。

Q：消防団組織も少子化と自営業の減で、団員確保が厳しい。さらに7分団は新野原、比木原、朝比奈原地域だが、違う地域へ溶け込むことが難しい。行政区単位にできないか。また、査閲大会の訓練を続けるならば、7分団が訓練できるよう比木多目的広場へもナイター設備をつけてほしい。

A：昼間は勤めで市内にいない、市外へ住んでいる団員もいると聞いている。消防団は8月の地震でも活躍してくれた。市民の期待に応えるため、消防団を無くすことはできない。道路が寸断されれば原地区での火災への備えも必要だ。企業も理解してくれるところばかりではない厳しい状況だが、消防団の幹部会で研究していく。

Q：病院は別として、現在市の職員は何人いるのか。いくつか分団ができるのではないか。

A：340人ほど。保育士や幼稚園教諭など女子職員の比率が高い。考え方もあるかもしれないが、災害対策への対応などを考えると団員との兼務は難しい。

Q：原発の1・2号機の廃止について、4段階に分けてやるというが、市としての監視体制はどうか。

A：今日、廃止措置が国から認可された。廃止に当たってはその計画の詳細が示されるごとに、国の原子力安全保安院にチェックを任せる。中電にはその都度報告とタイムリーな情報公開を呼びかけていく。

Q：グラウンドゴルフの愛好者が浜岡地区だけでも300人と増えている。署名活動をして多目的グラウンドの整備を要望したが経過はどうか。

A：当初は、市民プール北側の山の尾根を整地する話だった。グラウンドで汗を流して、プールも使ってもらい、市民の健康増進に寄与することは、確かにいいことだが、10億単位の費用がかかるとのことだった。市議会から今日、提言を受けたのはその西側区域。2億～3億であれば当初予算へ組み入れることも可能かも知れないが、平成22年度予算は税収の落ち込みが見込まれるため、非常に厳しい。相応の費用対効果を調

査していきたい。

Q：進んでいく海岸の浸食に対して、県や市はどう対応していくのか。

A：浜松から牧之原にかけて広域にわたる海岸侵食に対して、県も浜松や磐田などで養浜対策を講じているが、なかなか効果が表れていない。研究と対応を県へ要望していきたい。

Q：観光地御前崎として、今の評判や状況はどうか。

A：クエ料理の普及やホテルの営業PRによって、お客様は増えていると聞く。しかし、御前崎へ滞在してくれない。新年度予算で灯台付近の整備を進めていくが、灯台や桜ヶ池、浜岡砂丘なども観光客は減っている。何とかしようと特産品づくりや体験農園、海岸清掃のボランティアなど、頑張っている市民をサポートしながら、核となるものを考えたい。アイデアを寄せてほしい。

Q：比木原は過疎地域。今後20年先が不安。子どもに対してここへ住めと言えない。山間の過疎地域とは違った意味で、近くに街はあるものの、目に見えない住環境の整備というか住む人に優しい地域であってほしい。具体的に何をしてくれということではないが。

A：佐粟谷バイパスが開通した新野は寂しくなった、朝比奈原にも公共施設がないなどの意見も聞かれる。確かに南へ南へと開発されてきている。参考意見として承る。